

(平成二十一年秋 選句八句)

- 2点①炊ける香に家族集いし栗御飯 美紀子
- 5点 赤とんぼう行こか戻らうか竿の先 正子
- 5点①なつき句のクレイヨン冬薔薇 佳史
- 7点②走り蕎麦十一人のをどこ連れ 秀一
- 4点 野の花を供へし墓に参りけり 眞実
- 1点 バス停に困栗拾う子と母と 忠夫
- 5点①小春日や喜寿の集のかほかほ顔 幸枝
- 3点 球磨川は菫に染まり秋の鐘 ヤエ子
- 9点 颱風過海鳴り一日鳴りやまず 梅乃
- 1点 天高し進軍敵なし観艦式 幸
- 3点 越後路は神の留守にも恵みあり 文枝
- 8点 十六夜や名園に聞く薩摩琵琶 与史
- 7点②かの恋のうたかた風の芒かな 守
- 8点 バス大ゆれ瓶のどぶろく怒らすな 貞勝
- 7点①そぞろ寒波も届かぬ捨小舟 深水
- 4点 夕映の川に沿ふ道草紅葉 ゆき乃
- 4点 生花や班入りの葉よし穂も芒 眞三
- 4点 4点 夕映の川に沿ふ道草紅葉 眞三
- 3点 箸置に箸整へて土瓶蒸し 眞実
- 4点 木守柿終いぞ小鳥の餌となりし 梅乃
- 1点 蜿蜒の地下道出れば小春空 貞勝
- 6点 雨戸閉む音早々と夜寒かな 深水
- 朝顔のまだ青と五十余も 眞三
- 7点①日めくりの早薄くなる冬隣 文枝
- 2点 落日秋園を彩り会果つる 幸枝
- 1点 端然と上向き咲きぬ杜鵑草 ヤエ子
- 3点 秋日和ボタソに呼ばれり渡り舟 幸
- 1点 宵越しの嵐も過ぎて富士映える 忠夫
- 5点 山歩き火照る身体に秋の風 正子
- 栗飯のおかげか夫の上機嫌 美紀子

- 1点 天国の父呼ぶ五〇と鬼の子と 守
- 7点①媚ひを売る猫に付き合ふそぞろ寒 秀一
- 5点 冬の日を驕りて咲けりピラカンサ 佳史
- 2点 心まで彩り紅葉の目の当り ゆき乃
- 3点②ライトアップの塔越えゆけり雁の列 与史
- 7点①海峡を跨ぐ稲妻続きをり 梅乃
- 6点①構梁の土薫る手へ新酒酌む 眞実
- 1点 病院の同じ月夜の武道館 貞勝
- 5点 植木屋の帰りし庭や秋惜しむ 深水
- 4点①帰り花わたしのこどかそこと笑む 文枝
- 2点 うたた寝湯秋日の風に檜の香 眞三
- 1点 コスモスや幸のべル鳴る眞幸駅 ヤエ子
- 1点 日差し受け一段冴える沙羅紅葉 忠夫
- 4点 秋燈下手書の教読み返し 幸枝
- 7点②晩学の肩にやさしき秋の雨 守
- 出港のしらせに女性白鳥翔つ 幸
- 7点①母の庭狭くなりゆく竹の春 美紀子
- 4点①幼子や籠に一杯秋の夢 正子
- 2点 勝手場の模様替えて年の暮 ゆき乃
- 1点①雑踏やだらりの帯の冬うらら (四条通り) 秀一
- 3点 むささびの白きが落下比叡山 佳史
- 7点②腰下ろす本丸跡や草の露 与史
- (注) 選句をしていただいた方のうち二名の方が、特選の印を付けていただいております。とを付記いたします。

得点順

九点

颯風過海鳴り一日鳴りやまず 小川名梅乃

八点

十六夜や名園に聞く薩摩琵琶 平井 与史

バス大ゆれ瓶のどぶろく怒らすな 野上貞勝

七点

②走り蕎麦十一人のをどこ連れ 佐渡谷秀一

②かの恋のうたかた風の芒かな 増田 守

②晩学の肩にやさしき秋の雨 増田 守

②腰下ろす本丸跡や草の露 平井 与史

①そろそろ寒波も届かぬ捨小舟 瀬戸 溪水

①日めくりの早薄くなる冬隣 安沢 文枝

①媚びを売る猫に付き合ふそぞろ寒 佐渡谷秀一

①海峡を跨ぐ稲妻続きをり 小川名梅乃

①母の庭狭くなりゆく竹の春 青木美紀子

六点

①棟梁の土薫る手へ新酒酌む 武田 眞実

雨戸閉む音早々と夜寒かな 瀬戸 溪水

五点

①なつかしき句のクレイヨン冬薔薇 秋山佳史

①小春日や喜寿の集のかほかほ顔 桜井幸枝

赤とんぼう行こか展ろうか竿の先 柳沢正子

山歩き火照る身体に秋の風 柳沢正子

冬の日を驕りて咲けりピラカンサ 秋山佳史

植木屋の帰りし庭や秋惜しむ 瀬戸溪水